

6

国 語

松蔭大学附属 松蔭高等学校

令和六年度 松蔭大学附属 松蔭高等学校 入学試験問題

国 語

○ 注 意

- 1 問題は①から④まで18ページにわたって印刷してあります。
- 2 指示があるまで中を見てはいけません。
- 3 検査時間は五〇分です。
- 4 解答はすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから新しい解答を書きなさい。
- 6 検査番号(算用数字)、氏名を、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

**1** 次の本文を読み、あとの問いに答えなさい。

主人公は部活で先輩に嫌われたことをきっかけにクラスにも居づらくなり、家出をした。見知らぬ街で電車を降り、海岸にある駐車場に居たところを一人の中学生の女の子に声をかけられ、一晚を明かした場面である。文章を読んで後の問いに答えなさい。

どうして私が疑われたのか、最初はわからなかった。だけど、今ならわかる。それは私がたぶん、一番、部活で、演奏が下手だったからだ。みんなよりテンポが遅れる。楽譜が追えなくなつて音が出ていない時がある。クラリネットは大切なメロディーラインになる曲だつて多いのに、と前から注意されていて、だから、みんなに追いつけるように頑張っていたつもりだった。だけど、足手まといだったから、だから、私はきつと先輩たちからとても嫌われて、疎まれていた。

あとはたぶん——そうやって練習する私を、先生が気にかけてくれていたから。顧問の片桐先生は若くて人気がある男の先生で、演奏のうまい三年生の男子の先輩たちと私と一緒に練習をするように言った。そうやって先生や男子たちと距離が近くなつたように見えたことも、私が疎まれ、疑われた要因のひとつだ。あの子だけ、下手なくせになんでって。その男子たちの中には、あの先輩の好きな人もいたのに。

「ふうん」

彼女が頷いた。<sup>うなづ</sup>言葉が軽くて、救われた。同じ学校でないこの子には、それくらいの「ふうん」くらいのことなんだと思うと、胸が複雑に一度強く痛んで、だけど、同時になぜか、ほっとする。

「その先輩、で、そのせいで相手に振られちゃったとかそういう感じ？」

「ううん。先に気持ちはバレちゃったけど、その後で告白して、今は付き合ってるみたい」

「え。なんだ、それっ—」

彼女が心底<sup>②</sup>驚いたように、目を見開き、顔をしかめた。その言い方と表情があまりに大仰<sup>おおぎやう</sup>だったから、私もびっくりしてしまふ。彼女がさらに言った。

「それじゃ、もうよくない？ 自分がうまくいったんだったら<sup>b</sup> 万々<sup>ばんばん</sup>歳<sup>さい</sup>じゃん。もうあなたのこと責める必要もないのに、なんで？」

「結果的にうまくはいったけど、でも、最初に約束を破ったことの方はやっぱり許せないって。私の、他の態度とかも、全部、問題があるって、何がきっかけだったのかは、もう、たぶんみんな、どうでもよくなつてた」

「うわあ……、信じられないくらい頭悪い」

彼女がげんなりしたように顔をしかめる。第三者にそうはつきり言ってもらえると、胸のつかえが消えて、気持ちが楽になっていく。

「<sup>③</sup> なくてよかったね」

彼女が言った。ザザーン、と、穏やかな波の音がその声に重なる。

「そんな人たちのために、<sup>③</sup> なくてよかった」

「うん」

潮の匂い<sup>a</sup>がする風が流れてくる。その風の冷たさを感じられることが、今はとても嬉しかった。心から、今なら<sup>d</sup> 頷く<sup>うなづく</sup>ことができた。

「私、<sup>③</sup> なくてよかった」

——こんなに遠くまで来たの、初めてなんでしょう？ と彼女に言われたことを思い出していた。私は来れた。こんな遠くに、ひとりでも。<sup>A</sup>

「ねえ」

ふいに、彼女が言った。私に尋ねる。

「昨日、本当にひとりだった？」

「え？」

「私の家、あそこのマンションの四階なんだけど」

彼女が大きな通りを挟んだ少し先にある建物を指さす。その窓の一つに私が目を留めると、彼女が言った。

「昨日、花火の処分に困って、家のベランダから外を見てたら——ここに、あなたと、もうひとり、女の子がいたの」

「え？」

「あなたの横にいて、二人で海を見てる感じで。何してるんだろう、と思ってたら、ひとりがこっちを見て、私に向けて手招きしたんだよね」

目を見開いた。<sup>B</sup> びっくりして——次の瞬間、反射的に、花が供えられた一角を見る。ミルクティーの缶や、ぬいぐるみ。かつてここにいて命を落とした、女の子。

「知らない子だったけど、なんか、呼ばれたなって思ったから、だから来た。ちょうど、花火の処分にも困ってたし。したら、あなたがひとりでいたから、だから聞いたんだよ。ひとり？ って」

すうっと、<sup>④</sup> 背筋が伸びる。怖いとか、嫌だ、という気持ではなくて、きちんと姿勢を正したいような、そんな気持ちで自然とそうなった。

「そっからは、なんかなりゆき」

海が、目を開けていられないほど、本当に眩<sup>ま</sup>しい。その光に目を細めながら、彼女が続ける。

「家出も、自殺願望も、あてずっぽうだけど、なんか——そんなのになって思ったら、聞いちゃって。会っちゃったし、私の前で、なんか今日そうさせるのは絶対に嫌だなんて、そう思ってたんだ」

私の目は、まだ、吸い寄せられるように花が手向けられた一角を見ていた。 [C]

コスモスとカスミソウの花束。ユニコーンのぬいぐるみ、ミルクティ、花火。

「どんな子だったのかな」

気づいたら、私が聞いていた。二人とも、自然と足が花束の前に向かい、並んでじっと、その一角を見つめる。

「なんで、死んじゃったんだろう」

「事故だって話だけど」

二人して、並んで手を合わせる。胸がきゅつとなった。

事故、ということは、自分で命を落としたわけじゃなかった、ということだ。もっと生きたかっただろうし、だから——出てきてくれたのだろうか。

命日だったのかもしれない、と、さっき思った考えは、あながち間違いではなかったのかもしれない。たくさんのお供え物が今も置かれて、誰かにその死を悼まれているその子は、昨日の私を、放っておけない、と思ってくれたのだろうか。 [D] 誰も私のことなんて、もう見ていないし、気づかないと思っていたのに。

手を合わせたまま目を閉じると、自然と唇が動いた。小さな声で、ありがとう、と呟く。隣の子に聞こえないように——と思っただけで、それと同時に聞こえてもいい、とも思った。

昨日——出口のない気持ちでここまでできた私に起きたことは、一体なんだったんだろう。

「なんとかなるよ」

ふいに、彼女が言った。目を閉じたまま、私が返事ができずにいるとまた、言った。

「家出しちゃって、怒られるかもだし、大騒ぎになったり、みんな心配してるかもだけど、生きて戻ってきたら、それで大丈夫だよ。なんとかなる」

「……ん」

「ねえ、おなかすいたよね？ マック行かない？」

声がして見つめると、彼女が顔を上げていた。私の方を見て、明るく言う。

「私も、今帰っても怒られるだけだし、朝マック行こうよ」

「このあたり、マックあるの？」

何もない海辺の町、という気持ちで昨日、寂しい道を歩いてきた印象しかない。私が言うと、彼女が噴き出した。

「あるって。何それ、バカにしてる？ あっちの通り一本入ると、結構、都会だよ。行こ」

彼女が私の腕を引く。その手に確かな質感と、温度がある。その感触に、ああ——と、思う。空を振り仰ぎたい気持ちになる。

この子がユーレイじゃなくて、よかった。

そして思い出す。自分が昨日、この子に、「そばにいてほしい」というお願いごとをしてしまったことを。

今になって恥ずかしく、その言葉が。蘇ってくる。

「名前、教えて。私、のどか」

彼女が言った。こちらに向けて、手を伸ばしている。その手を握り返して、私も答える。

「私、——海未」 [E]

あの時、そう思って、駅を降りてよかった。

「ええー、かわいい名前」

「のどか」も、かわいい名前だよ」

話しながら、私たちは一緒に歩いていく。途中、気になってさっきの広場を振り返ると、海から陽光が照り返す明るい広場の前に、静かに微笑む女の子の姿が一瞬見えて、すぐに消えた——気がした。

(辻村深月『ユレーイ』)

問1 〓 線 a ~ e の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問2 〓 線①「言葉が軽くて、救われた」とあるのはなぜか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 中学生は思春期にさしかかる難しい時期だから簡単に人を嫌いになることがよくあるので特に気にならないと言っているようだったから

イ 中学校時代は多感で誰でも一度は家出をして心配かけるものだと軽く考えているように伝わってきたから

ウ どの中学校にも似たようなもめ事があり、周りの人から見ると大したことでもないと思われていたから

エ 女子の先輩からしてみたら、自分が好きな男子と後輩の女子が仲良くなった、一緒に練習することとが面白くないのは当然だと思っていると伝わってきたから

問3 〓 線②「彼女が『驚いた』」とあるが、誰の、何に対して、なぜ驚いたかがわかるように、解答欄の「から驚いた。」に続く形の文章で答えなさい。

問4 〓 ③に共通して入る二字の語を考えて書きなさい。

問5 〓 線④「背筋が伸びる」は主人公のどういう気持ちを表す態度と言えるか、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 花が供えられているのを最初に見た時の嫌な予感

イ 隣にいる彼女がユレーイだと思っていたことに対する後悔

ウ 私と同じように苦しんで亡くなった子がいるんだという身を震むような気持ち

エ 事故で命を落とした女の子が命日に私に会いにきてくれたという偶然を受け入れたいという気持ち  
オ 私が苦しんでいることを見抜いてユレーイが助けに来てくれたのかも知れないという予感

問6 次の一文を入れるとすれば本文中の **A** から **E** のどこが最適か、記号で答えなさい。

夜の海って、そういえば、見たことがない。

## 2 次の本文を読み、あとの問いに答えなさい。

ドラえもん『ブリキの迷宮』に出てくるチャモチャ星では、人間たちが「のんびり遊んで暮らしたい」という欲望をどんどんインフレさせ、次々に新しいロボットを作っていました。そうするうちに、新しいロボットを開発することすらめんどくさくなり、ロボットを發明するロボットが開発されます。そんな中で、ロボット博士が「イメコン」という新しい發明をします。これは、人間が心に思ったイメージをロボットに伝えるシステム（人間は指一本動かさずに暮らせる）であり、イメコンを使い始めたために人間たちは筋力がどんどん衰え、ロボットなしではもはや体を動かすこともできなくなってしまう。そうした状況を見計らって、ロボットたちはついに人間に反逆し、發明家ロボットが新たな独裁者になる…。

そこにあるのは、ひたすら安楽を求めようとする人間の欲望の果てしなさ、科学技術に依存する人間の弱さであり、科学技術を **A** に <sup>①</sup>コントロールしきれない人間の根本的な無能性なのです。

人間の「弱さ」それ自体を象徴するのび太の弱さは、頭の悪さや運動神経の鈍さよりも、ドラえもんへの依存体質にありました。それはもちろん、ドラえもんという未来のロボットに対する依存であり、便利な科学・技術・文明に対する依存体質でもある。

『ドラえもん』の第一話では、ドラえもんは、のび太に対し堂々と「このドラえもんがつきつきりめんどく見てやるよ」「ぼくのすることにまちがいはないの」と宣言しますが、タケコプターをのび太のお尻につけたために、飛んでいるうちにズボンが脱げて、のび太はまさかさまに地上に墜落してしまうのでした。怪我をしたのび太は「あいつ、ほんとにたよりになるのかなあ」と疑問を感じます。

重要なのは、すでに雑誌連載の第一話の時点から、科学技術の魔法のようなすばらしさ、恩恵が示される

と同時に、その使い方を間違えたいへんに危ういことになる、ということがはっきりと示されていることとでしょう。

たとえば『オバケのQ太郎』（連載開始一九六四年）は、石油がたくさんあって未来がバラ色だった時代のマンガでした。これに対し『ドラえもん』（連載開始一九七〇年）は、もともと「これからどうなるかわからなくなってきた時代」の <sup>a</sup>世相を <sup>b</sup>ハンエイした作品としてはじまったのです。

よく読めば『ドラえもん』には、コミックスの1巻から早くも、戦後日本の時代と文明に対する暗い翳りが落ちていきます。たとえば「ペコペコバツタ」（1巻）では、ドラえもんのひみつ道具のせいで、警察官が罪の意識に目覚めて、じぶんから牢屋にはいつて「ベトナム戦争も、コウカガクスモッグも、物価の値上がりも、みんな僕の責任です」と泣くのです。

「1」、科学技術や人類の未来に対する **B** な気分は、もともと『ドラえもん』の世界の前提だったのです。

科学技術はとても便利であり、魔法のように人類に幸福をもたらしてくれるけれども、それを使う私たち人間は、つねに行動や選択を誤りうる生き物なのです（いわゆる認知革命以降の人間観においては、感情や情念が理性に優先する、とされます）。

だとすれば、自分たちのどうしようもない無知や無能さをつねに自覚しながら——とはいえ科学技術の積み重ねを否定することなく——、科学技術を慎重に使っていくしかない……それが『ドラえもん』の科学技術に対する <sup>②</sup>スタンスなのです。

そもそも未来のひみつ道具は、どこか根本的な <sup>c</sup>ケツカンがあつたり、ポンコツな機能を備えていたりするものが多く、どんなに科学技術が進歩しても、人類の愚かさ、まぬけさはあまり変わらないのではないか、文明は向上しても文化の面では未成熟のままではないか、とウンザリした気持ちになります。

ドラえもんが「これはさすがに使い道がない」と壊そうとしたり、捨てようとしたりするひみつ道具を、のび太が使ってみて、案の定<sup>③</sup>トラブルを起こす、というのもしばしば出てくるパターンでしょう。

そもそもドラえもんもまた未来の発明品の一つであり、技術の産物としての猫型ロボットであるわけですが、わたしたちはのび太のダメさ、弱さに注目しがちですが、ドラえもんもどちらかといえばボンコツの部類に入るロボットでした（ドラえもんは二二二年九月三日にロボット工場で生まれていますが、「できがわるくて特売品にな」り、さらに「がらくたばこ」の中に入れられていたのです）。

それでいえば、そもそもドラえもんがロボットであるのに、ドラえもんが四次元ポケットからさらにべつのロボットを出してそれに頼る、というパターンが『ドラえもん』にはしばしば見られます。

考えてみれば、奇妙なパターンだと思います。たとえばとう虫コミックスの第1巻には、早くも「ランプのけむりオバケ」という短編があります。ここでは、ドラえもんも早くもグータラしはじめており、自分自身がロボットなのに、別のロボットに任せて昼寝を続けようとしています。「2」、ランプから出てきたけむりロボットにとっては、あくまでものび太がご主人様であるため、けむりロボットはのび太からの命令をドラえもんにも強制的にやらせようとする……という<sup>④</sup>おかしい主従関係が生まれてしまっています。

この「ロボットのロボット」というおかしい主題は、たとえば「トモダチロボットのロボ子さん」(2巻)、「ミチビキエンゼル」(3巻)、「おもちゃのへいたい」(4巻)、「ころばし屋」(13巻)、「ロボッターの氾濫」(19巻)、「ロボット背後霊」(37巻)等の作品に出てきますが、多くの場合、自分たちの欲望をかなえるためにロボットに命令をすると、ロボットたちがその命令をあまりに過剰に遵守しようとするために、逆に人間たちにとって不利益が生じたり、ロボットによって行動をソクバクされてしまう、「3」主人と奴隷の関係が奇妙に逆転してしまう、というパラドックスに行き着きます。

そう考えてみれば、『プリキの迷宮』の内容は、『ドラえもん』の短編の中でくりかえし描かれていたテー

マをあらためて集大成的に扱ってみせたものだ、と言えるでしょう。

重要なのは、<sup>⑤</sup>科学技術のパラドックスや環境問題・エコロジーが、たんなる頭でつかちの観念的なイデオロギーとしてではなく、のび太の友人であり、私たちの隣人としてのドラえもん（人類の科学技術の達成としてのロボット）の<sup>⑥</sup>Cな身体を通して問われていく、ということなのです。

一九九〇年代前半のドラえもん映画では、それまでの「のび太は自分の弱さに向き合えるか」という「自己問題」から、新たに「のび太は他者ドラえもんの弱さに向き合えるのか」という「他者問題」へと問いが展開されていったと言えます。それは同時に、ドラえもんの中にある根本的な弱さを見つめなおす、ということでもありました。

この点からも『プリキの迷宮』は、ドラえもんとのび太の友情関係をおそらくもつともラジカルに問いなおした作品である、といえるでしょう。

『プリキの迷宮』の物語のはじまり近く、ドラえもんがのび太に、道具の力にばかり頼っていると自分の力では何もできないダメ人間になるぞ、二二世紀に帰っちゃうぞ、と告げます。

「4」重要なのは、のび太だけではなく、ドラえもんの側にも根本的な弱さがあることなのです。それはのび太を突き放せず、際限なく甘やかしてしまう、という弱さです。

のび太の側だけではなく、ドラえもんの側にも弱さがあり、心の中の葛藤と反省があるのです。のび太のことを助けたいのだけれども、助けすぎてはいけません。<sup>⑦</sup>長い目でみれば、それはのび太のためになりません。ドラえもんもそのことはわかっています。「5」、結局のところ、のび太をつきはなすことができず、ずるずると助けてしまう。先ほどの台詞のあとにも、ドラえもんは怒りながらも、最終的にはひみつ道具を出してしまうのです。

そしてくりかえしますけれども、『プリキの迷宮』は、ドラえもんのアイデンティティ問題と、人類にとつ

ての科学技術(文明)の問いなおしとがわがちがたく連動しているのです。

(杉田俊介『ドラえもん論』)

\*インフレ(インフレーションの略)：膨張

\*パラドックス：逆説 矛盾

\*イデオロギ―：思想形態 社会のあり方などに対する考え方

\*ラジカル：根本的な

問1 〓線 a e のカタカナは正しい漢字で、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問2 〓線 ① ③を漢字二字で言い換えなさい。

問3 「1」「5」には「つまり」か「しかし」のどちらかが入る。「つまり」が入るものを全て番号で答えなさい。

問4 A C に入る語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 抽象的      イ 反省的      ウ 具体的      エ 理性的

問5 〓線 ④「おかしい主従関係」とは、どういうことか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本来はドラえもんがのび太の主人なのに、けむりロボットがのび太の主人のようになってしまったこと

イ のび太のお世話するのはドラえもんの役割なのに、けむりロボットがそれをやってしまうこと  
ウ ドラえもんは自分が楽をするためにけむりロボットに命令したのに、けむりロボットに使われていること

エ けむりロボットの主人はのび太のはずなのに、のび太の主人であるドラえもんの言うことは聞かないこと

オ ドラえもんの主人はのび太なのに、のび太ではなくけむりロボットの言いなりになっていること

問6 〓線 ⑤「科学技術のパラドックス」とはどのようなことか。本文の内容に即して40字以上50字以内で説明しなさい。

問7 — 線⑥「長い目でみれば、それはのび太のためになりません」とあるが、ドラえもんがのび太のこ  
とを助けすぎてはいけない理由を説明しなさい。

**3** 次の文章は、体育館にいる新入生の前で、陸上部の部長が部活動の紹介をするための原稿である。あなたは、この陸上部の部長から原稿についてのアドバイスを頼まれた。この原稿を読んであとの問いに答えなさい。

こんにちは。陸上部です。陸上部は全員トラック競技である短距離種目を専門とする部員と長距離種目を専門とする部員、合わせて二十人で活動しています。陸上競技は、個人で取り組むことが多いので、孤独な競技だと思っている人もいるのではないでしょうか。

**A** しかし、わたしたちは、「」という、チームスローガンを共有することで、一つのチームとして結束しています。活動日は、毎週月曜日、水曜日、金曜日、土曜日の四日間で、顧問の木村先生に教えてもらいながら練習しています。あさっての水曜日に、練習見学会を学校のグラウンド西側で実施する予定です。

**B** では、練習内容を紹介します。まず、全員でウォーミングアップと体幹トレーニングをした後、それぞれ種目ごとに分かれます。短距離ではスタートを強化する細かい練習などを行います。大会前にはリレーのバトンパスの練習も取り入れます。長距離の部員は、男子五人、女子三人です。長距離では全力走とジョギングを繰り返す緩急をつけた練習などを行います。練習の最後に、再び全員で集まり、ストレッチやミーティングをして終了します。

まだ何も決めていなくて、どの部活動にするか悩んでいる人もいます。ぜひ、「」をスローガンとするわたしたち陸上部の姿勢を見てから、入部を考えてみてください。新入生の皆さん、共に高校生活に青春のページを刻みましょう。

なお、あさっての練習会は、持ち物や着替えの必要はありません。放課後グラウンド西側に集合してください。

問1 ——線Aを聞き手である新入生に伝えるときに、注意すべきこととして適当でないものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 印象づけるように、言葉に強弱をつけて話す。
- イ 理解できるように、意味によるまとまりで区切って話す。
- ウ 冷静に伝えるために、原稿に目線を落として話す。
- エ 聞き取りやすくするために、はっきりとした発音で話す。

問2 ——線Bを、木村先生に対する敬意を表す表現に書き直しなさい。

問3 原稿の第三段落において、練習内容をより簡潔に伝えるために、練習内容にない、ある一文を削除したい。その一文の最初の五字を抜き出しなさい。

問4 原稿の□には、次の意味をあらわす四字熟語が入る。その四字熟語を正しい漢字で答えなさい。

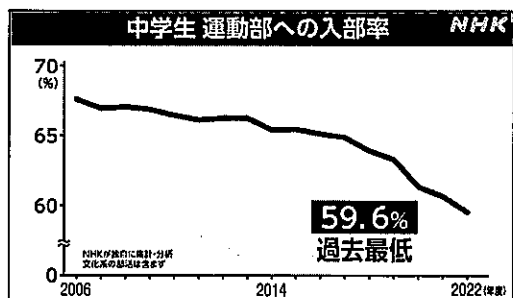
- ① 石や玉などを切り磨くように、道徳・学問に励むこと。
- ② 志を同じくする仲間と互いに競い合い、励まし合って向上すること。

「広辞苑」などによる引用

問5 次のグラフは、二〇〇六年から二〇二二年の中学生の運動部への

入部率をNHKの調べによってグラフにしたものです。図を見ると、年々入部率が低くなっていることがわかります。その理由として考えられることを二つ挙げ、それに対してあなたの考えを60字以上80字以内でまとめなさい。

(ただし、考えられる事柄として、新型コロナウイルスとの関係性は除外すること。)



4

次の1～4と同じ意味を表す語を後から選び、正しい漢字で書きなさい。

- 1 非の打ち所がない
- 2 後ろ髪をひかれる
- 3 鼻が高い
- 4 背筋が凍る

とくい

きょうふ

かんぺき

びんじょう

みれん

**得点**

から驚いた。

50408060

|          |   |  |
|----------|---|--|
| <b>4</b> | 1 |  |
|          | 2 |  |
|          | 3 |  |
|          | 4 |  |